

学 会 記 事

I. 運営委員会報告（議事のみ）

1997年10月3日に神戸大学発達科学部において開催

- ①編集委員会による植生学会誌投稿規定改訂（案）ならびに同執筆要領改訂（案）について承認した。
- ②1997年度総会の議題整理を行った。

II. 編集委員会報告（議事のみ）

1997年10月3日に神戸大学発達科学部において開催し、植生学会誌投稿規定および植生学会誌執筆要領の改訂について審議した。

III. 1997年度総会報告

1997年10月4日に神戸大学発達科学部において1997年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。総会出席者数43名。

A. 報告事項

1. 事務局（庶務関係）

- ①1997年9月30日現在の会員数は380（一般会員312，学生会員61，団体会員7）である。
- ②企画委員会からシンポジウムの開催、学会ホームページの開設などに関する企画案が提出された。

2. 事務局（会計関係）

- ①本年度の予算執行状況について（略）

3. 事務局（編集関係）

- ①1996年10月から1997年9月までの間に植生学会誌13巻2号（掲載論文数5編，総頁数52頁）と同14巻1号（掲載論文数6編，総頁数73頁）を発行した。14巻2号は1997年12月発行予定。
- ②これまでの投稿論文総数は30編。既掲載のもの16編，すでに受理された未掲載のもの6編，現在校閲中のもの8編。
- ③植生学会誌投稿規定の4の「原稿のうち，原著論文，総説，短報については，」を「原稿について」と改訂する。また，植生学会誌執筆要領の1の「和文の要約（なくて

もよい）」を「和文の要約」とする。なお，この規定および要領は1997年10月4日より適用する。

- ④植生情報第1号（会員名簿を含み30頁）を1997年3月に発行した。

B. 承認事項

1. 1996年度の収支決算（別掲）

2. 今後，当該年度の予算はその年度の総会に提案し，承認を得ることにし，それまでの間（通常4月から9月までの6ヶ月間）は予算を前倒して執行することにする。これに基づき，1998年度の予算案については1998年度の総会に諮り，承認を得る（1997年度の予算については昨年度の総会で承認済み）。
3. 次期運営委員選出の方法を運営委員会で検討中であり，1998年度の総会での承認に向けて，原案を作る。
4. 企画委員会の活動のあり方について，事務局と企画委員会で再検討する。
5. 会員拡大の方策として，学会のホームページを開設することとし，事務局で準備にとりかかる。
6. 植生学会第3回大会を1998年10月2日（金）～10月4日（日）に横浜国立大学で開催する。

C. その他

1. 1998年度の大会開催地である横浜国立大学の奥田重俊氏より，大会企画の概要説明があり，多数の会員の参加が要請された。
2. 宮脇昭氏（国際生態学会会長）から来年イタリアのフィレンツェで開催される国際生態学会議への参加とスウェーデンのウプサラで開催される国際植生学会への参加の呼びかけがあった。また，2000年の国際植生学会43回大会は日本で開催されることになったとの報告があった。

IV. 植生学会第2回大会報告

植生学会第2回大会が1997年10月3日～5日，神戸大学で開催された（下記日程）。大会参加者は188名，一般講演は48であった。

10月3日：編集委員会，運営委員会

10月4日：一般講演，総会，懇親会

1996年度決算

(単位：円)

収入の部		予 算	決 算	差 額
移管金	群落談話会より	504,372	504,372	0
会費		1,500,000	2,390,500	-891,500
	一般会員6,000円×220人			1,320,000
	学生会員4,000円×30人			120,000
	団体会員10,000円×6			60,000
雑収入	広告料など	50,000	0	50,000
	群落談話会未納分	0	44,000	-44,000
	利息	0	107	-107
計		2,054,372	2,938,979	-884,607
支出の部		予 算	決 算	差 額
本誌刊行費	500,000円×2回	1,000,000	1,169,771	-169,771
情報誌刊行費	300,000円×1回	300,000	155,120	144,880
送料		153,600	171,230	-17,630
事業費	シンポジウム開催費など	100,000	0	100,000
学会事務局経費		200,000	121,427	78,573
編集委員会経費		200,000	142,130	57,870
予備費		100,772	100,000	772
計		2,054,372	1,859,678	194,694
収支差額（繰り越し）			1,079,301	

10月5日：エクスカージョン（再度山、能勢町）

大会における一般講演は以下のとおり：

- A01. 石田弘明・服部 保（兵庫県立人と自然の博物館）、宮崎県における照葉型里山の特性について
- A02. 赤松弘治（(株)里と水辺研究所）・服部 保（兵庫県立人と自然の博物館）・武田義明（神戸大・発達・生）・山崎 寛（兵庫県柏原農林事務所）、北摂地方に成立するクヌギーニシノホンモンジスゲ群集（仮称）について
- A03. 服部 保（兵庫県立人と自然の博物館）・武田義明（神戸大・発達・生）・山崎 寛（兵庫県柏原農林事務所）・打浪久淳（兵庫県豊かな森づくり推進室）・松尾正春（兵庫県森と緑の公社）・山瀬敬太郎（兵庫県森林・林業技術センター）、兵庫県の里山整備事業による里山整備の方向
- A04. 伊藤秀三（長崎大・教養・生）、ふたたび種の地理分布の中心域と限界域における生態分布の相違について
- A05. 沖津 進（千葉大・園芸）、カムチャツカ半島中部ダリナヤープロスカヤ山における森林限界付近のダケガンバ林の構造と植生地理学的位置づけ
- A06. 上條隆志（東京農工大・農）、伊豆諸島の常緑広葉樹林の生態的特質としてのニッチ拡大
- A07. 佐藤雅俊（帯広畜産大・草地）・橘ヒサ子（北教大）、西別湿原の変遷とヤチカンバ群落の分布構造
- A08. 小林圭介・名迫素代・久保善道（滋賀県文化短大）、滋賀県稲垂湿原の植生と保全対策
- A09. 吉田久視子（神戸大・総合人間科学）・武田義明（神戸大・発達・生）・竹岳秀陽（日本気象協会）、兵庫県南部における低湿地植生の植物社会学的研究
- A10. 富士田裕子（北大・農・附属植物園）・井上 京（北大・農）、ハンノキ林における地下水位の変動について
- A11. 吉川正人・福嶋 司（東京農工大・農）、鬼怒川中・下流域河辺のヤナギ林群落の種組成
- A12. 永吉照人・小館誓治（兵庫県立人と自然の博物館）、マヤランの生態と増殖
- A13. 小館誓治・永吉照人・石田弘明（兵庫県立人と自然の博物館）、カザグルマ群落の立地環境
- A14. 藤井俊夫・小館誓治・服部 保・石田弘明（兵庫県立人と自然の博物館）、分布北限地におけるハイノキの生育状況
- A15. 渡辺幹男・榊原洋子（愛知教育大・生）・榊田敏宏（愛知教育大学附属高等学校）・神崎 護・山倉拓夫（大阪市立大・理）・芹沢俊介（愛知教育大・生）、加重平均法による各種タンポポ地区の作成—大阪城におけるニホンタンポポの落域の危機—
- A16. 鈴木 武（兵庫県立人と自然の博物館）、兵庫県加古川市のヒメコウホネの緊急移植とその後
- A17. 下田路子（東和科学(株)）・中本 学（大阪ガス(株)）・森本幸裕（大阪府立大）、営農作業による休耕田植生管理の試み（第1報）
- A18. 田川日出夫（鹿児島県立短大）、照葉樹林群系について
- A19. 田中徳久（神奈川県立生命の星・地球博物館）、神奈川県大和市の植生
- B01. 八木正徳・星野義延（東京農工大・農）、東京近郊の丘陵地におけるアズマネザサの分布と微地形との対応
- B02. 清水英彦（(株)アイ環境計画同人）・奥富 清（(財)自然保護助成基金）、竹林の拡大とその拡大に関する生態学的研究Ⅴ—モウソウチク個体群の時間的構造変化とその戦略的意義—
- B03. 黒崎裕美・高間 一・豊原源太郎・出口博則（広島大・理・生）、コナラの産地による開芽時期の変異
- B04. 西尾孝佳・福嶋 司（東京農工大・農）、太平洋型ブナ林の群落分化と隣接群落の関係—DCAによる解析—
- B05. 井上 晋（九州大・農）・山野辺捷雄（佐世保市役所）、九州におけるブナの分布西限林の植生
- B06. 大野啓一（横浜国大・環境研）・尾関哲史（日本工営(株)）、丹沢山地ブナクラス域の植生景観の群植物社会学的研究
- B07. 長岡総子・奥田重俊（横浜国大・環境研）、本州中部におけるウラジロモミ林の種組成について
- B08. 蛭間 啓・福嶋 司（東京農工大・農）、群馬県、玉原高原のブナ林における種組成と構造の関係
- B09. 伴 武彦（(株)ポリテックコンサルタンツ）・福嶋 司（東京農工大・農）、東京湾の人工海浜における海浜植物群落の特性
- B10. 石丸京子・島山末吉・小松輝行（東京農大・生物産業・植物）、エゾノコリンゴ海岸砂丘林の群落構造と組成
- B11. 岡野哲郎・荒上和利（九大・農）、モミ・ツガ林の構造と動態について
- B12. 小川みふゆ（東京農工大・農）、日光地方の山地帯林および亜高山帯林におけるシウリザクラの挙動
- B13. 前迫ゆり（奈良佐保女学院短大）、御蔵島の照葉樹林におけるオオミズナグドリの影響
- B14. 武田明正（三重大・生物資源）、三重県の温暖帯域にみられる森林の種多様性と階層構造
- B15. 星野義延・中島慶次（東京農工大・農）、都市一郊外景観傾度に沿った土地利用とつる植物相の変化
- B16. 西本 孝（岡山県自然保護センター）・波田善夫（岡山理科大・総合情報）、航空写真から見た羅生門周辺の50年間の植生変遷
- B17. 細川博久・菊池多賀夫（岐阜大学流域環境研究センター）、ブナ科コナラ属の未記載種、いわゆるモンゴリナラの生育環境
- B18. 波田善夫（岡山理科大・総合情報）・高橋和成（岡山県立岡山朝日高等学校）・難波靖司（(財)岡山県環境保全事業団）・大西智佳（(株)ウエスコ）、鷲羽山の植生と立地環境
- B19. 岸田章一・児島葉子・豊原源太郎・出口博則（広島大・理・生）、二次遷移に伴う木本植物の被度の増減
- C03. 中尾昌弘、浅見佳世（(株)里と水辺研究所）、生物相の保全を目的とした放棄水田の植生管理について
- C04. 浅見佳世（(株)里と水辺研究所）、山戸美智子（神戸大・総合人間科学）、除草型チガヤ群集（チガヤ・ヒメジョオン群集）の特性について
- C05. 山戸美智子（神戸大・総合人間科学）、浅見佳世（(株)里と水辺研究所）・服部 保（兵庫県立人と自然の博物館）、兵庫県三田市における圃場整備前後のチガヤ型草原の比較
- C06. 桑原佳子（(社)大分野生生物研究センター）・福嶋 司（東京農工大・農）、久住高原のリゾート開発における草原の復元について
- C07. 迫田昌宏（神戸大・教育学研究科）・武田義明（神戸大・発達・生）、貴重種ヤブレガサモドキの生育環境について
- C08. 山田麻子・大野啓一（横浜国大・環境研）、三浦半島小網代周辺の谷津田放棄地の植生について
- C09. 池田 正・大野啓一（横浜国大・環境研）、天城山北斜面における微地形と植生分布について
- C10. 竹原明秀（岩手大・人社・生）、宮城県小野田町荒

沢地域の植生

- C 1 1. 中西弘樹(長崎女子短大), 長崎県石灰質砂岩地帯の植生とフロラ
- C 1 2. 波田善夫(岡山理科大・総合情報), 安達一雄(中外テクノス(株))・難波靖司(岡山県環境保全事業団)・大西智佳((株)ウエスコ), 樹木種子による法面緑化 — 播種1年目の結果について—